



ワークショップ D 「読書材としての新聞活用」

植田 恭子 (大阪市立昭和中学校教諭)

ワークショップ D では、「①課題意識をもつ ②情報の取り出し、収集をする ③情報の解釈、分析をする ④情報の熟考、評価をする ⑤自らの情報を発信、表現する」という「読解のプロセス」を体験しながら、読書材としての新聞の活用のしかたについて学習しました。

【導入】新聞について書かれた絵本の紹介

初めに「ぶぶんぶんぶん しんぶんし」(織田道代 文、古川タク 絵 月刊かがくのとも 347 号)を紹介し、よみ聞かせを行った。新聞の意外な一面について知ることができる絵本である。



【説明】ワークショップの趣旨について

本ワークショップでは、新聞の特長を生かした活用について考えていく。会場にはベテランの先生に加え、朝日新聞社の記者(NIE担当)の方も出席されている。参加者一人一人が有意義な場になるようにしたい。

ワークショップの名前にもなっている、「読書材としての新聞活用」について、高木まさき先生(ことばと学びをひらく会 会長・横浜国立大学教授)は次の 2 点を挙げている。

- ①新聞を通して、より多くの言葉や文章に出会える。
- ②新聞のメディアとしての特性という理解を深められる。

【実践の紹介】「よむ」ということ

◎よむことについて考える単元の実践紹介をした。

【学習の流れ】

1. 「〇〇をよむ」 〇〇には何が入る？

この活動は、生徒に高度情報化社会の中で、「よむこと」のありようが多様化していることを考えさせるためのものである。参加者にも「〇〇」に当たる言葉を 1 分間で考えてもらい、自己紹介もかねて一人ずつ発表してもらった。

【参加者から出てきた「〇〇を読む」】

情報、お経、胸の内、俳句、辞書、マンガ、本、広告、新聞、流れ、表情、戦術、雑誌、手紙、教科書、心、未来、絵本、行間、さば、時代など。

※実際の教室でもたくさんの「〇〇」が挙がった。

2. 写真をよむ

スウェーデンのオリエンテーリング科(日本の道徳科)で副読本として使われていた絵本、「たんじょうび」(レイフ・クリスチャンソン 文、にもんじ まさあき 訳)を使った実践を紹介した。

「たんじょうび」のあらすじ

誕生日を明日に控え、プレゼントは何かと考える僕。カメラかな、自転車かな。あれこれ考えた後に登場する、途上国の一枚の少年の写真……

①表紙の情報をよみとる。

- ・タイトル「たんじょうび」からイメージすることを考える。
- ・本の内容に関わる「プレゼント」について考える。
- ・サブタイトル「ゆたかな国とまずしい国」に注目し、それぞれの国からイメージできることを考える。
- ・絵から中身を考える。

②本の中身に入る。

- ・よみ聞かせ。

③「途上国の少年の写真」からよみとれる情報を考える。

写真をよむ手順として、写っている情報を言葉にすることから始めるとよい。写真が人物の場合、性別や年齢、国籍について、その根拠とともに聞く。また、写真を撮影した人物、アングル、込められた思いについても考えさせる。

④この少年へのプレゼントを考える。

参加者にも何をあげたいか、考えてもらった。

【参加者が考えたプレゼント例】

安心していられる国、抱きしめてあげること

⑤訳者「あとがき」をよむ。

あとがきを先に与えてしまうと先入観を与えることになるので注意が必要。意識の高い生徒は、あとがきを受けて、初めとは違うプレゼントを考えはじめていた。

教室での授業は、ここで終わるのではなく、「世界の子どもたち」について目を向けさせた。ゆたかな国とまずしい国の割合についてふれ、生徒たちに、自分ができることは何かを考えさせた。

この実践を通し、いろいろな情報にふれて、「まずは知ること、次に考えること」の重要性を強く感じた。

【活動】 新聞情報をよむ——朝刊 2 紙を使って

朝刊 2 紙から記事を選び、スクラップするという活動を通して、参加者に「読解のプロセス」を体験してもらった。

読解のプロセス

1. 課題意識をもつ
2. 情報の取り出し、収集をする
3. 情報の解釈、分析をする
4. 情報の熟考、評価をする
5. 自らの情報を発信、表現する

■朝刊 2 紙を使って

[活動の流れ]

1. 心に響く記事を探す

朝日新聞と読売新聞の朝刊を準備した。実際に記事を「選んで、切り取って、貼る」という活動の意味や重要さを体感できるように、参加者には心に



響いた記事を探してもらった。時間に余裕があれば、同じ出来事について2紙を比べてもらう。見出し、写真のよさを生かし、まずはその二つだけをよむように指示。実際の教室では、子どもや学校に関する記事を探させた。

2. 切り抜いて、スクラップ用紙に貼る

スクラップ用紙に貼り付け、選んだ理由を書く。ここで大切なのは、情報源を明確にすること。「〇〇年〇〇月〇〇日付△△新聞の朝刊〇〇面」という情報も忘れずに明記する。

3. お互いに記事を発表

二人一組になり、選んだ記事について発表する。選んだ理由、心に響いた点についてそれぞれの思いを語る。

[参加者が選んだ記事の例]

(2007年10月27日朝日新聞・読売新聞朝刊より)

- ・ 夏目漱石「坊っちゃん」の直筆原稿を載せた書籍についての紹介記事
- ・ 学力テストについての記事
- ・ 全日本マスターズ陸上で世界記録を更新した101歳の選手についての記事

■スクラップすることの意味

新聞の中から、どうしてこの記事を取り取ってきたかということが重要になる。情報は主体的に関わり、自分との接点がないと生かされない。スクラップはただ切り取るという作業ではなく、情

報と出会うよい機会となる。

今、生徒たちの実態を見ると、情報があふれているにもかかわらず、興味や関心があるごく限られた情報の中だけで自分を閉ざしてしまっている。コミュニケーションも限られた人間の中でしか行われておらず、深まることがない。積極的に情報と関わっていき、自分自身でつかみとっていくことの大切さを生徒に伝えたい。

【実践の紹介】 比較してよむ

■安倍首相辞任に関する記事を使って

安倍首相の辞任に関して報道された新聞を使った、比較よみの実践紹介を行った。実践では、見出し、写真、リード文の比較をさせるだけではなく、同じ新聞社でも版が違くと、1面のトップ記事の内容が変わってくることを確認させた。

[12日の夕刊]

朝日新聞(東京本社)の4版では、「安倍首相 辞任表明」という見出しで、辞任のニュースがトップ記事になっている。だが、3版(早い時間帯に作られたもの・印刷工場から遠い地域に配達された)では、辞任の記事はなく、秋田で起こった殺人事件がトップ記事になっている。これは、辞任の記者会見が開かれたのが14時からであり、それ以前に作られた3版は記事として載せることができなかつたために、違いが生じたといえる。

[13日の朝刊]

朝日新聞(大阪本社)の写真は13版と14版で大きく違っている。13版では会見中の姿、14版では辞任会見を終え、会場を後にする姿の写真が使われている。

■比較よみを通して

大きな出来事や政治的なものは背景説明など、情報の奥にあるもののみとりも必要になる。情報との関わりも身近なことだけではなく、社会や世界の出来事に目を向けて考える生徒になってほしいと願う。



まとめ

新聞は難しいものと思われがちだが、教室の中で生徒たちと一しょにふれてほしい。生徒が日常の言語生活で新聞も含めたさまざまな情報に興味・関心をもって活用し、自らの学びに生かすことができれば、言葉の力を高めることができると考える。